

2008 年度 (平成 20 年度) 学校評価自己評価表

最終更新日	2009年(平成21年) 3月 6日
-------	--------------------

校番 32	福山市立松永小学校
-------	-----------

1 学校教育目標

自ら学び 心ゆたかに ねばり強く

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

松永に誇りを持ち、地域社会に貢献できる子どもを育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

— 子どもも満足、教職員も満足、保護者地域も満足する学校 —  
 ①基礎学力と生活学力を身につけている子ども  
 ②指導力向上のために主体的に技と心を磨き、地域・保護者から信頼される教職員

3 自校の現状分析

「基礎・基本」定着状況調査の通過率において、市平均より、国語科は1.5%、算数科は1%下回る結果である。昨年度より、確かな読みの力を育てるための取組みや授業力アップを目指してきたが課題があった。そこで、今年度は確かな学力を育てるために、「学習のしつけ」を基底とした、習得・活用・探究する力を育成する授業づくりと心を豊かにする読書貯金を取組むことで論理的思考力や表現力を育てることとした。

生徒指導では、時間を守ることやねばり強く物事に取組む姿勢は出てきたが、場に応じた言葉遣いができなかったり、掃除を黙って行う事ができない実態がある。児童の規範意識を高め、当たり前前のことが当たり前前にできる児童の育成を図っていく。

児童の体力づくりにおいては、新体力テストの結果、県平均を上回るものも多かったが、巧緻性や敏捷性については課題がある。体力向上委員会を中心として、サーキット運動の低・中・高学年の項目を作成し、運動量を増やし体力向上に向けた取組みを進めていく。

また、開かれた学校を進めていくために、情報発信を積極的に行い、地域や保護者の理解や協力を得ていく。

校長の経営理念を実現するために、組織的マネジメントに沿った学校運営を行い、組織体として動いていく教職員集団を確立していく必要がある。

4 研究主題

(1) 研究主題

確かな学力を育てる授業づくり  
 ～論理的思考力・表現力を高めるために～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(国語)	平成20年～平成22年

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
基礎学力を定着させるために、習得・活用・探究する授業の創造	基礎学力の定着においてはまだ十分ではなく課題も多い。そこで、習得・活用・探究する力を育成する授業づくりにおいて、PDCAを取り入れ、確かな学力を育てる。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
I 確 か な 学 力	1	「習得・活用・探究」を目指す授業研究を一人2回以上実施する	★	新規	教育研究にPDCAサイクルを導入し、明確な検証を確立する	A	◇低・中・高学年での習得でつきたい力を明確にし、7月・12月・2月に検証を行い80%以上の達成率にする。  ▽児童評価カードをもとに、PDCAサイクルで検証する取組を行う。	a  a	□「習得させたい力」については、児童の自己評価カードの結果87.4%が「習得できた」と肯定的評価を得た。 ○国語科における「習得・活用・探究」を目指す授業では全教職員2回は実施することができた。また、視点を明確にした事前、事後の研究協議を行うことで指導者の授業分析力が向上してきた。 ◎今後も教材研究の視点を明確にすることで全教科において「習得・活用・探究」する授業を目指す。
	2	ことばの教育の充実を行う取組みを通して「できる」の児童を80%以上にする		見直し	ことばタイム・表現朝会を通して「つなぐ」「結論」「理由」の3ポイントの力を育てる	B	◇「言語技術を使って話すことができる」の評価を7月・12月・2月に検証を行い80%以上の達成率にする。  ▽継続的なことばタイムで培った力を、朝のスピーチや表現朝会で発表する。	b  a	□チャレンジタイムや全教科の取組みを通して、「言語技術を使って話す」ことを意識させた結果81%の達成率である。 □朝のスピーチ・ことばタイム・表現朝会を通して3ポイントのつける力のうち「結論」「理由」は着実に力が付いてきている。 ◎「つなぐ」のことばを使って話すのが65.4%の達成率で課題がある。今後も「つなぎことば」を取り入れたお話作り・日記・作文などを書くことを通して身に付けさせる。
	1	本を読むことが「好きになった」児童を85%以上にする		新規	心を豊かにする読書貯金の取組を行う	A	◇読書貯金を低学年60冊、中学年3000ページ、高学年4800ページの達成率を7月・12月・2月に把握し、80%以上にする。  ▽家庭との連携を図り「テレビなしデー」月2回。親子読書月1回行う取組を60%以上にする。	a  a	□読書貯金においては低・中・高学年の目標は達成することができた。 □家庭との連携を図り「テレビなしデー」73%、「親子読書」81%の達成率である。 ○「学級文庫の充実」「朝読書」「親子読書」「ボランティアによる読み聞かせ」を通して、本を読むことが好きな児童は89%である。 ◎図書室の環境づくりや学級文庫の充実等の取組みを図書ボランティアの人と連携を図りながら、今後も事あるごとに読書に興味を持たせる取組を行う。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
Ⅱ 豊かな 心	1	体験活動を通して、思いやりの心や規範意識が「高まった」という児童を80%以上にする		新規	規範意識を高め自ら考え行動できる力を育成する	B	◇集団宿泊の行事、総合的な学習、生活科等での体験活動を生かした規範意識を高め、児童アンケート評価の「できた」を7月・12月・2月に行い、80%以上にする。	b	□体験活動を生かした「きまりを守って行動できましたか」の達成率は90%である。 □集団宿泊の行事、総合的な学習、生活科等における体験活動計画書の作成は全学年作成することができた。 ○「自分から進んで行動する」や「思いやりの心」を持って接していくは80%の達成率である。 ◎「自ら考え行動できる力」の育成に向け、異学年交流の機会を取り入れた学校生活や行事等を増やす。
							△広島県教育資料を参考にした体験活動計画書を作成し取組みをする。	a	
	2	5つの約束(はっきりと挨拶・黙って掃除・丁寧なことば・チャイム席)の「できる」の児童を80%以上にする	★	見直し	基本的な生活習慣と社会性を身につける指導を徹底させる	A	△「はっきりと挨拶」「黙って掃除」「丁寧なことば」「チャイム席」「身だしなみを整える」の5項目の達成率を7月・12月・2月のアンケート調査を実施し、80%以上にする。	a	□「はっきりと挨拶」81%、「黙って掃除」73%、「丁寧なことば」70%、「チャイム席」92%、「身だしなみを整える」95%の達成率である。 ○「5つの約束を守る」の平均達成率は82.2%である。 ◎「黙って掃除」「丁寧なことば」の項目については組織マネジメントに沿った改善を図る。
	2	サーキット運動を行うことで、体力向上が「できた」という児童を80%以上にする		継続	体力向上担当者を中心とした、計画的・日常的な体力向上の取組みを実施する	B	△サーキット運動の低学年・中学年・高学年の体力向上に向けた項目ごとの達成率を80%以上にする。	b	□体力向上に向けたサーキット運動を体育の時間に行い項目ごとの達成率は80%である。 □新体力テストの結果分析による「サーキット運動カード」は作成することができた。
							▽新体力テストの結果分析に基づいた、低学年・中学年・高学年のサーキット運動カードを作成する。	a	○日常的な体力向上に向けた運動を、家庭との連携のもと「体力づくりがんばりカード」を取り入れ75.3%の実施率である。その結果、柔軟性については伸びてきた。 ◎今後も本校の課題である、筋力向上に向けた鉄棒・登り棒のサーキット運動を積極的に取り入れ体力向上を行う。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
Ⅲ 力量 ある 教職 員	2	優れた研究の成果や実践のノウハウを積極的に校内に還元するを85%以上にする		継続	専門性を高める研修と教科リーダーの育成を図る	A	◇個人レポートを2回は作成し、実践交流・情報交換を夏季研修・冬季研修を中心に2回以上行う。	a	□夏季・冬季研修において個人レポートの実践交流・情報交換の研修を行った。(レポート数60本) □教科リーダーによる模擬授業1回、演習は2回、夏季研修で行うことができた。 ○研究教科である国語科の専門性を高める研修を教科リーダーを中心に推進することができた。 ◎英語活動や道徳の教科リーダーを中心とした実践交流や演習を取り入れて、今後も積極的に校内に還元する。
							▽教科リーダーによる模擬授業1回、演習を1回以上行い、専門性を高める取組みを行う。	a	
Ⅳ 市民 から 信頼 され る 学 校	2	地域・保護者から信頼される学校を目指し、保護者からの肯定的評価を85%以上にする	★	見直し	学校の情報を定期的に発信する	A	△学校評価自己評価表の成果や課題を記述した学級通信を学期に2回以上発行し80%以上の達成率にする。	a	□学級通信を全クラスが2回以上の発行をすることができた。内容は読書貯金・テレビなしデー・学習の定着状況等の成果や課題などである。 ○学校情報は月1回以上定期的に発行することができた。 ○地域・保護者からの肯定的評価は86%であった。 ◎情報発信を今後も積極的に行う。
	2	松小プランの達成率を90%以上にする		継続	人材育成を通して、マネジメントサイクルの組織的な学校経営・学年経営等を行う	A	◇学校組織マネジメントに沿った「松小プラン」の進捗状況について7月・12月・2月に把握し達成率を80%以上にする。	a	□「松小プラン」の進捗状況について3回「C」「A」を行い、達成率は90%である。 ○学校経営参画意識の自覚が高まり、組織マネジメントサイクルで動くことができた。 ◎今後もプランナーを中心と人材育成の取組みを行う。
	2	教育公務員としての自覚と使命感を確立する研修を10回以上実施する		見直し	教育公務員としての自覚を持ち、ふさわしい行動を行う	A	◇松永小学校心得3カ条「ていねいな対応」「情報管理」「提出期限厳守」の達成率を7月・12月・2月に検証し90%以上にする。	a	□松永小学校心得3カ条については「ていねいな対応」95%、「情報管理」97%、「提出期限厳守」95%の達成率である。 □毎月のアンケート調査を行う中で教育公務員としての自覚は高まり達成率も向上してきた。 ○教育公務員としての自覚を高める研修については、15回実施することができた。 ◎今後もワークショップ型研修を取り入れ、当事者意識を高める研修を時と場を逃さないで実施する。
						▽毎月アンケート調査実施し、教育公務員としての意識を高め、行動化の取組みを行う。	a		